



質問 16. あなたは、シラバス記載の学修の到達目標が達成できた。

質問 17. この授業は、あなたにとって総合的に有意義で満足できるものであった。

★9-13、16-17 の選択肢：「5 強く思う」「4 やや思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」「1 全くそう思わない」

★14,15 の回答：記述式（数値入力）

質問 9～17 学生自身の学修に対する評価について

自身の学修に対する評価について設問のうち Q9～Q13 に対する学生の回答は、「強く思う」「やや思う」を合わせた結果が 63～48%で、これは前期とほぼ同様の値であるものの、やはり多くの項目でわずかずつ下回っている。授業への満足度を問う Q18 でも肯定的な評価は 71%（前期は 73%）となっている。その中で復習による学修への理解度を問う Q13 のみ肯定的な回答が 3%増加している。前期ではいずれも平均 36 分であった予・復習の時間がそれぞれ 52 分、59 分と大きな伸びを示していることもこの結果と関係しているのではと推測される（ただし予習による学修への理解度を問う Q12 は 1%下落）。

質問 18. 本授業の学修行動において、発揮できなかった能力はどれですか。（複数回答あり）

★18 の選択肢：1 主体性 2 働きかけ力 3 実行力 4 課題発見力 5 計画力 6 創造力 7 発信力  
8 傾聴力 9 柔軟性 10 状況把握力 11 規律性 12 ストレスコントロール力

質問 18 学生自身の学修行動に対する評価について

Q18「本授業の学習行動において、発揮できなかった能力はどれですか(複数回答可)」に対する学生の回答は 14%～30%の範囲で 3 つの力、12 の能力要素それぞれに満遍なく分布している。その中で前期には 31%もの学生が発揮できなかったとしていたストレスコントロール力が 20%に低下し、発信力についても 25%から 14%と回復している。「コロナ禍」での大学生活、学修環境に学生たちが適応しつつあることの反映ではないかと考えられる。